令和6年度第3回豊川市防犯推進計画策定委員会 議事録

日時:令和6年11月7日(木) 午後1時30分より
場所:豊川市役所 市民研修室(防災センター1階)

1 あいさつ

2 議題

- (1) 豊川市防犯推進計画(案)について
- (2) パブリックコメントの実施について

3 出席者

矢野明文委員、田口直美委員、加藤洋平委員、神道眞典委員、恩田やす恵委員、倉橋智委員、柴田浩志委員、今泉一義委員、牧野哲久委員、初田明穂委員、牧野賢之委員
中西成人市民部長
木村晋也市民部次長兼人権生活安全課長
橋爪慈子人権生活安全課長補佐兼人権推進係長
菅沼宏隆交通安全防犯係長
長坂美紀主任
清水亜希主任

4 傍聴者数

5名

【資料】

- 資料1 豊川市防犯推進計画(案)
資料2 豊川市防犯推進計画概要版(案)

1 あいさつ

市民部長

2 議題

- (1) 豊川市防犯推進計画(案)について

委員長:

今日は前回に引き続き、豊川市防犯推進計画の案について、審議を行う。

今回資料は前回皆さんからいただいた意見を踏まえて事務局が修正した。その修正箇所を中心に皆さんに議論やご意見をいただければと思う。よろしくお願いします。

それでは、議題(1)「豊川市防犯推進計画案」について。事務局から説明をお願いします。

事務局:

計画案について、第2回策定委員会の協議を踏まえて修正した点を中心に説明する。

資料1、46ページ。「第2章 計画の基本的な考え方」。

「1 基本的な考え方」の「1-3 計画の基本目標」。

今回は、「刑法犯認知件数の減少」として、基準値を「令和元年認知件数」「目標値923件」としていた。こちらは、コロナ前の令和元年の刑法犯認知件数923件を基準とすることは変更していないが、表現を「刑法犯認知件数を年間923件(令和元年値)以下とする」とわかりやすくなるよう修正した。

次に「第3章 施策の展開」。49ページ。

「施策の柱1」「基本施策(1) 市民の防犯意識を高める活動の推進」の中の⑥の施策について。

前回「犯罪加害者にならないための教育の推進」となっていたものを「規範意識を身につける教育の推進」とし、内容についても「犯罪被害に遭わないだけでなく、なぜ犯罪はいけないかを伝えるなど、規範意識を身につける教育を推進します。また、家庭や地域と連携しながら、子どもが犯罪に関わらないための教育を推進します」と修正した。

次に、その3つ下の「基本施策(2)市民が不安に感じる犯罪への啓発・対策」の中の「③子どもや女性への性暴力被害防止の推進」について。

前回の委員会で、性暴力被害は女性だけでなく男性も被害に遭っているため、取組の対象としてほしいのご意見をいただいた。

こちらについては、計画の前段で、特に女兒について課題としていることから、施策のタイトルはそのままとしたが、内容については、「女性」という言葉を削除し、実際に事業を行う際には、男性も被害者となっていることを踏まえ、啓発等を実施していく。

次に、53ページ、施策の柱「3 犯罪が起こりにくい環境づくり」。

(1)現状と課題の中の、赤字になっている部分「少年犯罪の状況」について触れるとともに、青少年健全育成についての視点を加えた。

そして、次ページの赤字の「⑧青少年にかかわる相談支援」「⑨スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの配置」を追加した。

ここで資料2概要版のA3版資料をご覧いただきたい。

この2つの施策、「青少年にかかわる相談支援」「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの配置」については、前回の案では、施策の柱「4再犯防止の推進」の「基本施策(7)非行防止と修学支援の実施」の施策として、紐づけていたが、施策の柱「3犯罪が起こりにくい環境づくり」の青少年を育成するための施策として位置付けたので、再犯防止の展開する施策については、再掲とした。

また、この修正に関連するが、前回の計画案では、施策の柱「4再犯防止の推進」の「基本施策(7)非行防止と修学支援の実施」の施策の中に「適応指導教室(さくらんぼ教室)」を紐づけていたが、削除した。

「適応指導教室(さくらんぼ教室)」は、修学を支援することで、非行防止につながるという意図で紐づけていたが、市には、学習支援を行う事業が複数あり、この事業だけを掲載することで、特に非行と結びついているような違和感があることから、学習支援事業については、すべて掲載せず、相談支援の施策を位置付けることで、必要に応じて修学支援や学習支援事業にもつなげるという整理をした。

事務局：

次に、施策の柱4「再犯防止」について。

展開する施策について、貧困に陥っている方が犯罪に走ってしまうということが多く、生活保護制度を知らせることが必要というご意見があった。担当課に相談し、委員の意見のとおり、施策に位置付けることとした。57ページの一番上の段、「③生活保護制度」に加えた。

次に、保護司の相談場所の問題についてご意見があった。

地域福祉課に確認したところ、保護司会の活動拠点として、豊川更生保護サポートセンターがあり、市が支援を行っているとのことだったので、計画はそのままとした。

なお、面接場所については、居住場所に限らず公共施設を活用することも最近認められているとのことだが、借用の手続きが必要であったり対象者の様々な事情があったりするなど、積極的な活用までには至っていない状況があるとのこと。

次に施策の柱5「犯罪被害者等支援の推進」について。61ページ。

展開する施策について、DV等被害者の緊急時の対応に関して、シェルター設置のご意見があった。ハード面の対策については見送ったが、引き続き国や県の制度等を活用し、適切に対応していく。

以上が、前回の委員会でいただいたご意見をもとに、修正を検討した内容となるが、その他に、冒頭に市長あいさつ文を掲載したほか、60ページにコラムを追加した。

このコラムは、保護司会や更生保護女性会、協力雇用主会などが、協力して行っている「社会を明るくする運動」について、この計画の紙面を使ってより多くの方に知っていただくため、地域福祉課により作成した。

また、余白の多いページへ写真、イラストを掲載したほか、表記の統一などを行った。修正箇所については、赤字となっており、説明は省略する。

事務局：

続いて資料2計画概要版(案)について。概要版。

概要版は表紙のほか、A4両面1枚とA3片面1枚で構成されている。

訂正

資料2 表紙の次のページ 中段の「計画の位置づけ」の●の3つめ。

訂正前：「再犯防止等の推進に関する法律」 → 訂正後「再犯の防止等の推進に関する法律」

資料2 A3版資料の「基本姿勢」の四角の中の、一番右の行

訂正前：「誰一人取り残されない」 → 訂正後「誰一人取り残さない」

概要版内容の説明。2枚目。

「計画策定の背景と推進体制」として、本編第1章に記載の、計画策定の趣旨、計画の位置づけ、計画期間、本編第4章に記載している計画の推進体制を抜粋して記載した。

次ページ。「計画の基本的な考え方と構成」として、本編第2章に記載の、計画の基本的な考え方、計画の構成を抜粋して記載した。

続いて次ページのA3の表。こちらは、前回でお示したA3の表を体系図として添付した。前回からの修正箇所を赤アンダーラインで示した。

左上、課題を、何を元に課題を抽出したかわかるよう、「課題(犯罪等の概況及び防犯に関する市民意識調査結果より)」と改めた。

その他、本編の修正に伴い修正を行うとともに、字句の修正を行った。

議題(1)豊川市防犯推進計画(案)については以上。

委員長：

ありがとうございます。ただいま事務局から、前回の皆さまからいただいた意見をもとに計画案についての修正箇所を中心に説明いただいた。あとは新しく概要版を作成いただき、資料について説明があった。皆さんの方から今のご説明について何かご意見ご質問等ある方はいらっしゃいますか。

では、よろしく願います。

委員：

いただいた資料の全体の中で確認というか、考え方も含めてお話をしたいと思う。

それについては、初回から自分がこれまであまり勉強してこなかった「再犯防止」の部分について、またちょっと考え方を含めて教えていただけるとありがたいなと思ってお話をさせていただく。

一市民としてこの冊子をいただいたとして、再犯防止にどう取り組んでいったらいいのかなというのが、まず自分自身よく飲み込めていないというところがあって、いろいろこれまでお話ししていたのだが、今回市長さんの巻頭言が入った。

その中で、これを読ませていただいて、方向性が非常にはっきりしてきたなと思う。第三段落に既存の支援施策、「既存の支援施策へ適切につなぐための取組等を推進して…」という文言があった。

これを読ませていただいて、自分なりに「市民としてこういう方向に向けていけばいいな」ということが、とてもこう腑に落ちたというか、「こういうことなら、なんかいろんな手ができそうだな」ということを感じた。

これならば、それぞれ今までアンケート等を取り、いろんな実態を検証していく中で、進めてきた人たち、市民・一般の人たちを含めて、それぞれの人たちがそれぞれの立場で、その既存の支援施策につなぐという取り組み、進んでいけばいいのかなと、そんな目標が自分なりに明確にできたと思った。

そんな中でもう1つ、40ページに、課題から基本施策の方に導き出すというページがあるが、この中に使われている文言で、一般市民の皆さんに分かりやすくできないかなと考えた。

そこは、矢印の一番下、2番目の一番のところに「再犯防止への理解促進」という文言。先ほどの巻頭からすれば、弱いかもと。

もう少し、いろんな人が取り組んでいくのに、理解を促進するだけで再犯防止というものがまとめられていいのかなと。

これはあとで出てくる基本施策につながるが、例えば、ここに「理解促進」だけでなく、「包摂的な環境づくり」を、この目標、方向の中に位置づけることができれば、全体の目標として、課題を解決していく方向でもあるし、もう少し幅広い方向性というものが「包摂的な環境づくり」という言葉の中には入ってくるのではないかなと。ここにあがっている「理解促進」というものも「包摂的な環境づくり」の一つの内

容になっているのではないかと思う。

この巻頭から教えていただいた方向性というものが例えば、「包摂的な環境づくり」みたいな言葉で位置づけると、なお分かりやすくなり、あとの56ページからの基本計画に直結していくと、そんな風に読ませていただきましたので、ご検討いただければありがたい。

委員長：

ありがとうございます。今の発言を通して、事務局から何かありますか。

事務局：

はい。委員ありがとうございます。

今お話のありました通り、啓発にとどまらず、地域住民の方がアクションを起こすことも期待する。それも含めた計画推進のベースになってくるので、今のお話について、事務局で整理して表現を考えていきたい。よろしくお願いします。

加藤：

ありがとうございます。委員お願いします。

牧野委員：

先ほどの、こういうのはありがたいなと思って聞いていた。

名古屋保護観察所で保護観察官をしている。ここでいう再犯防止、再犯防止の推進に深く関わっている役所である。

具体的には、例えば犯罪をした者や非行した少年に対して、その犯罪をした人が刑務所に服役した後、その後仮釈放になった際に、保護観察を実施して、再犯をしないための指導監督を行っている。

あるいはその少年については、家庭裁判所から処分を受けたり少年院送致になったりしたものに対して、社会的な生活について保護観察を行うというところ。副委員長も保護司としてご活躍していらっしゃる。

お送りいただいた資料に目を通させていただくと1点意見をあげさせていただきたい。

具体的には4番の再犯防止推進、59ページ。

④のところ。内容は大きく変わるというものではないが、取り組みについて、ちょっと書きぶりを変更できないか。

この文面を一例として「更生保護サポートセンターの運営をはじめとした更生保護団体の活動に対して、継続的な補助・支援を行います」と変更するよう検討いただきたい。

理由は、保護観察という枠組みで犯罪をしたものや非行少年に対して指導監督を行っているが、当然その保護観察も期限があって、未来永劫、その人たちと関わり続けることはできない。期限が到来したら、その関わりが一旦切れてしまう。

そこで、保護観察が終わった後の相談というと、保護観察所でも構わないが、なかなか役所に行って相談するというのは敷居が高いという方が多いかもしれない。その中で地域の中では、更生保護サポートセンターがある。豊川だと、ふれあいセンター内に設置されている。

そこは保護司、更生保護女性会、協力雇用主といった更生保護団体の活動の拠点になっている場所である。これは各保護区単位で一か所ずつ設置はされているところだが、そういったところで地域援助を推進していくにあたって、その刑務所を出所した・少年院を出た者たちが地域に帰ってそこで生活していくと、その中で身近な相談場所として更生保護サポートセンターも一つとして地域援助について機能していくと期待している。

もちろん、そこに相談しに行ったからすべてが完結するというわけではない。

やっぱり豊川市内の今日お集まりいただいた皆さんが所属する団体など色々な関係機関等が困りごとや相談事に対して解決の糸口を見つけられないかと連携しながら、その人たちを支えていこう、それによって再犯防止につなげていこうという取り組みを推進している。

もちろん更生保護団体の活動に対して財政的な支援をしていただけるのは非常にありがたい。お金がないと活動もままならないという部分があるので、財政的な支援をしていただけるのは非常にありがたい。たく今後もお願いできたらと思う。

それ以外にも、更生保護団体の情報共有や周知方法といった関わりの方でご協力をいただけたらという思いから、継続的な支援という文言を加えていただけたら非常にありがたいと思う。

具体的に更生保護サポートセンターという名称を載せることによって、そういった相談機関があると皆さんが興味関心を持っていただくことにもなるかと思う。

委員長：

ありがとうございます。では、事務局いかがでしょうか。

事務局：

この件に関しては地域福祉課所管ですので、私の方から回答を。

ご意見をいただいた通り、更生保護サポートセンターは重要な拠点になっているので、PRの意味も含めて載せる方向で検討したいと思う。

スペースの都合もあるので書きぶりに関しては事務局で検討させていただきたい。

委員長：

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。お願いします。

委員：

2点お願いしたい。

まず1点目です。資料、計画書の60ページ。

前回まではなかったこの1ページを今回拝見して、大変うれしく、感動したというのは少々大きいかもしれないが、うれしく思った。

社会を明るくする運動についてと、それに関する豊川市での取り組みが書かれている。

社会を明るくする運動は本年度32回目を迎えるほど長い活動を継続している活動であるが、意識調査を見ると非常に認知度が低いということに、驚きはしないが、これほどだったかと、そんな感想を持った。

今回こうした冊子を発行するにあたって、このコラムができたことで、もちろん保護司会とか、更生保護女性会とか、あるいは協力雇用主会とか、そういった更生保護関係団体についての理解も進むでしょうが、まずこの社会を明るくする運動というのがしっかりページを割いて説明されていることはとてもいいことだなと思っている。

これまでは、他の委員のお話があったが、この豊川市としての計画であるから、更生保護団体、それぞれの団体がどういったことをやっているかということを中心に前面に出すことが難しいと思っていたので、今「活動支援」という言い方で、すべて私どもがやっていること、保護司会がやっていることが括られて、その中に個別に様々な取り組みがあるというそんな感覚でいた。

市としては補助金等の活動支援という意識だったため、ここについての表現を更に手を加えることもなかったが、今委員のご意見伺って、もう少し幅広く書けるものであるならばいいかなと思った。

社会を明るくする運動についてのコラム欄については大変ありがたく思っている、加えて、下の方の豊川市での取り組みの内容について、7月がこの社会を明るくする運動、略して社明運動と言っているが、その強調月間であることが示されている。

加えて、この7月は、「再犯防止啓発月間」でもある。

前の方に書いてあったと思うが、この2つを並列して書いていただくことで、近年、再犯防止ということが大変声高に言われるようになって、この取り組みが重要だという認識が示されている中だったので、ぜひその文言を加えていただきたいと思う。

豊川市の中では色々あるが、協力している社会を明るくする運動推進委員会には、例えば教育委員会とか、商工会議所とか、ここには民間事業者等とか、そういった多様な方々と共にこの運動に取り組んでいることがわかるようになるといいなと思う。

毎年7月には小中学校にはのぼり旗を設置するし、あらゆる立場の方がこの運動に参加しているということがわかるようであれば、さらにいいのかなと思う。1点目は以上。

2点目。59ページと54ページにかかる内容。青少年にかかわる相談支援、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの配置、この2つの項目を再犯防止のところと、それから犯罪が起りにく

い環境づくりの両方に入れたということだった。

概要版も確かにそうになっている。前回この基本施策の7の中の①②③、今回、適応教室がないが、それを見たときにちょっと感じたのが、非行等による、例えば高校中退をしたとか、非行など、あるいは、退学、怠けることで学校に行かないで中学校の履修内容をきちんと身につけていない、そういう子たちがいた場合に、学習支援をするっていうことの必要性がとても高くなる。そういった状況を踏まえた上での修学支援と私は読んだ。

その前に、非行防止という言葉があるわけだが、非行防止と不登校や引きこもり、あるいはニートということもあったが、こういった社会性を育てていくことができずに、困難な状況にある子どもたちが、必ずしも非行に走るわけではないので、そのあたりの線引きが少し難しいように思っていた。

とりわけ適応指導教室はどうかと思いつつも。

前は発言を控えていたが、今回は適応指導教室については、多分その教室の意義、目的、対象などを考えた上で削除したと思うが、①、②の青少年に関わるという… これについて、どうだろうかと思う。

基本施策の7に入れるのであれば、修学支援の実施というところがあるから、必ずしも非行防止のための施策であるという見方をせずに、修学支援に軸足を置いた具体的な対応・対策だというふうで考えることができると思う。そのため、そのまま継続でいいと思う。

しかしながら、54ページは、犯罪が起こりにくい環境づくりと、明らかに犯罪を意識した、あるいは非行を意識した施策で括られているところなので、社会的自立ができないままに、ひきこもっている状況の青少年を、もう少し年代が上もあるかもしれないが、そういった人たちの相談や支援。これがここに入るの少し抵抗があると思っている。

犯罪や非行ということと、不登校、引きこもりが必ずしもその強い関係、関係性、関連があるものではないと感じている。

しかし、すぐぐ揺れ動いて申し訳ないが、やっぱりこれはここへ入れた方がいいだろうということであれば、絶対いけないということではないが、実行していただけたらいいかなと思う。

その結果「両方に入れましょう」ということになっても、それは違うとか、強く訴えるものではない。

委員長：

はい。ありがとうございます。ご意見についていかがでしょうか。

事務局：

はい。委員からいただいた1つ目、7月再犯防止啓発月間については入れたいと思う。

それから2つ目の、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーの件、こちらについては、4の再犯防止、59ページの①②、上から一つ目、二つ目、こちらは残してもいいが、54ページの下の方⑧⑨。この2つはちょっとここにはふさわしくないのではないかという話でよろしいですか。

委員：

はい、簡潔に言うと。

事務局：

49ページをご覧いただきたい。

基本施策の(1)市民の防犯意識を高める活動の推進の項目。その⑥規範意識を身に着ける教育の推進。これは犯罪が起きないような規範を意識した、規範を身に着けるための教育を意識していくということ、ここに今回入れている。

そのため赤字になっているが、それと類似しているかなと思う。54ページにちょっと居心地が悪いものを除くとしたら49ページの⑥あたりに移動させるのも一考かなと思った。

委員長：

はい。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。ご意見ご質問等はよろしいでしょうか。

では、次の議題。議題2 パブリックコメントの実施について事務局からお願いします。

事務局：

本日お示しした豊川市防犯推進計画(案)については、この会議終了後、必要な修正を行い、職員による意見募集、市議会での所管事務調査を経て、市民の皆様のご意見をお聞きするパブリックコメントを実施する。

パブリックコメントの実施期間は、12月18日(水)～令和7年1月17日(金)までの1ヶ月間。

パブリックコメント終了後、意見募集の結果、意見を踏まえた豊川市防犯推進計画の最終案を、第4回の策定委員会でお示しする。第4回の策定委員会は、令和7年2月下旬又は3月上旬の開催を予定している。

委員長：

ありがとうございます。ただいまの事務局の説明について、ご意見ご質問のある方は。

では、ご意見がないということで。

それでは、この後の進め方について皆さんにお伺いする。

この委員会後から12月のパブリックコメントに示す計画案までの修正については、事務局が作業を行うことになるが、確認等については私に一任させていただきたいと考えているが、皆様いかがでしょうか。

委員：

異議なし。

委員長：

それでは私が責任をもって確認等させていただく。よろしく願いいたします。

これで本日の議題はすべて終了しました。事務局からご連絡ありますか。

事務局：

長時間にわたるご審議ありがとうございました。

また、次回の会議はパブリックコメント終了後の令和7年2月下旬から3月上旬を開催予定している。

日程決まり次第、ご連絡をさせていただく。よろしく願いいたします。

委員長：

ありがとうございます。

それでは以上をもちまして、令和6年度第3回豊川市防犯推進計画策定委員会を終了します。